

# 保全管理期間中の冬期にクロレート S を散布すると 翌春のスギナの発生を抑えられる（南相馬市）

福島県農業総合センター 浜地域農業再生研究センター

事業名 営農再開支援事業

小事業名 営農再開に向けた農業生産環境の改善

研究課題名 保全管理期間中のスギナ防除の実証（南相馬市）

担当者 小椋智文、佐藤優平

## I 新技術の解説

### 1 要旨

営農再開地域では、避難期間中に繁茂したスギナの発生を抑制するための有効な対策がないため、営農再開後の作物の減収が問題となっている。そこで、営農再開前の保全管理期間中の冬期に土壌処理剤の塩素酸塩粒剤（クロレート S）を散布したところ、翌春のスギナの発生を抑えることができた。

- (1) 試験は営農再開前の保全管理期間中の畑地で、スギナ、一年生イネ科雑草、広葉雑草が確認できるほ場で実施した。
- (2) 塩素酸塩粒剤（クロレート S）を 2020 年 1 月下旬に 10a 当たり 40kg を全面土壌散布した。
- (3) 塩素酸塩粒剤（クロレート S）散布後から 2021 年 5 月下旬（スギナ最盛期）までスギナの発生は少なかった。また、その他一年生雑草の発生も少なかった。

### 2 期待される効果

- (1) 円滑な営農再開に向けて、保全管理期間中のスギナ防除後に緑肥作物播種とその後の経営品目作付といったモデル体系の確立が期待できる。

### 3 活用上の留意点

- (1) 塩素酸塩粒剤（クロレート S）は医薬用外劇物であり、本試験では休耕田（1 年以上作付けしていないところ）での使用とした。推奨する散布時期は 11～3 月のスギナの根茎が地上部へ伸長している時期である。散布後 3 か月以内は作物は栽培できないので注意する。散布直後に長雨にあうと効果が劣りやすくなるため、晴天が続く日に散布する。農薬の使用に当たっては、農薬のラベルをよく確認し、農薬使用基準を遵守する。
- (2) 販売価格は 1 ケース 5kg 袋 4 袋入（20kg）約 10,000 円である。

## II 具体的データ等

表 スギナ最盛期の主要雑草の植生

区名	多年生 スギナ			一年生		
	被度※1 (%)	新鮮重 (g/m <sup>2</sup> )	乾物重 (g/m <sup>2</sup> )	被度※1 (%)	新鮮重 (g/m <sup>2</sup> )	乾物重 (g/m <sup>2</sup> )
塩素酸塩粒剤（クロレートS）	8	72.3	14.3	t ※2	383.6	73.7
除草剤無	42	222.0	49.5	28	899.3	239.5

※1 被度：各種雑草の占有率 ※2 t=占有率5%未満

（注）被度調査 2021/5/20、雑草採取 2021/5/24



図 スギナ発生状況

左：塩素酸塩粒剤（クロレート S）区 右：除草剤無区 （5月20日撮影）

## III その他

### 1 執筆者

小椋智文

### 2 実施期間

令和3年度

### 3 主な参考文献・資料

- (1) 令和元年度営農再開技術情報 タマネギ栽培前にスギナが確認できる場合はほ場選定に留意しましょう（南相馬市）
- (2) 除染後畑地のスギナ防除対策（国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構 東北農業研究センター 2021/3）